

「考えさせられる」葬儀(一)

葬儀についての問いから、
葬儀の何が語られないのかを分析する

浄土真宗本願寺派総合研究所 藤丸 智雄

富島 信海

一、調査の経緯

浄土真宗本願寺派総合研究所では、二〇一六年十二月より一年間、「葬儀」に関する情報が、書籍やウェブ上でどのように発信されているかを調査し、その後、収集したデータの整理・分析を行ってきた。

葬儀に関して、どれほどの情報が発信されているか、ご存知だろうか？ 実に様々な著者、組織、会社等から、おびた

だしい数の情報発信がなされている。

「葬儀」の情報が発信される方法は、出版物やウェブ、新聞・雑誌・TV等のメディアなど様々であるが、たとえば出版物をみると、二〇一五年から二〇一七年末までに、100冊を優に超える数の書籍が発刊されている。しかし、こうした書籍の中で、僧侶や教団など宗教的立場から発刊されたものは、上記期間においては8冊に過ぎない(研究所調べ)。また、ウェブ上で「葬儀」と検索して上位に登場するのは葬儀社のHPばかりである。

僧侶や教団が葬儀に関する情報を発信していたとしても、上位に出てこないため、ほとんど人目に触れることがない状況にある。このように、およそ情報発信の上で量的な格差が大きく、僧侶側から発信される情報が葬儀の動向に影響を与えているとは考えにくい。

本稿では、「葬儀」に関して発信される情報の内容を収集し分類することによって、「葬儀」の何が語られ、何が語られていないかを検討したい。その前提として、研究所では、書籍やウェブ上のQ&Aの収集作業を行った。葬儀社のHPでは、総じて「よくある質問」というページが設けられている。消費者側から多く寄せられるであろう質問が掲載され、それに対して回答されている。それらの中から、葬儀に関する質問を約500項目収集した。

二、質問の分類

収集した情報から、質問内容を以下の

ように分類し、質問例も合わせて示した。なお、主として質問形式になっているものを収集したが、次のように必要に応じて説明内容も問いの形式に変換して示した。また、適宜文体も調整した。

(例)

「お布施を渡すタイミングについて」

↓「お布施はいつわたすべきか」

①喪主としての心得

「葬儀費用は喪主が全額負担するものか」

「お寺様への支払いはいつするのか」

「必要最低限の経費の葬儀は」

「香典のお礼は」

②お寺を選ぶこと、僧侶を選ぶことについて

「菩提寺が遠いと、どうすればよいか」

「菩提寺のお寺が有るが、親友の僧侶に葬儀をしてもらってもよいか」

「関係のあるお寺はあるが、安いお寺にかえたい」

③葬儀の形態について

「一般葬と家族葬はどう違うのか」

「家族葬で呼ばない親族にはどんな対応が必要か」

「自宅で葬儀をするメリット・デメリットは何か」

「死後、すぐに火葬にしてよいか」

「湯灌とは何か」

④遺体

「戒名とは何か」

⑤法名について

「戒名とは何か」

「戒名は必要か」

⑥習俗一般

「友引に葬儀は行わないのか」

「葬儀から帰ったらなぜ塩をかけるのか」

⑦会葬者の心得

「香典の相場はいくらか」

「お焼香の回数」

⑧死後の手続き

「亡くなったら、まずどこに連絡すべきか」

「死亡届はどのようにしたらよいか」

⑨終活について

「終活って何をすればよいか」

⑩仏壇

「ご先祖様はどこにいるのか」

「宗派の違う位牌を入れてよいか」

「仏壇を移せる家がない」

⑪お墓

「永代使用料とは何か」

「お寺の後継者がいない。どうすればよいか」

「海に散骨できるか」

以上のように、収集した質問は11項目に分類された。他の分類方法もあるだろうが、11項目に暫定的に分類することで、どのような情報が発信されているかを、ある程度ご理解いただけるのではないだろうか。その他、ここに掲げなかった項目としては、一連の葬送儀礼が終わった後に執行される法事や、盆・彼岸についての質問も多く掲載されていた。

ところで、研究所では、本調査の情報収集とは別に、現代の葬儀事情に詳しい

小谷みどり氏（第一生命経済研究所主席
 研究員、近著『ひとり死』時代のお葬式
 とお墓』（岩波新書、2017）など著書
 多数）に独自に依頼して、葬儀に関連し
 て僧侶に聞きたい質問のリスト作成をお
 願いした。小谷氏から頂戴した質問リス
 トには、上記の分類に入るもの他に、
 次のような質問があった。

**① 葬儀を行う意義、葬儀に関連するもの
 の意味**

- 「何のために葬儀をするのか」
- 「何のために通夜を行うのか」
- 「何のために僧侶が必要なのか」
- 「読経は何のためなのか」

② 死後について

- 「死んだらどうなるの」
- これらは、葬儀社HP等には見かけな
 い種類の質問であるが、葬儀の本質を問
 う重要な内容として位置づけるべきであ
 ろう。

以下では、これらの質問項目、及び質

問に対する説明にも言及しつつ、注目さ
 れる点について紹介していきたい。

三、質問の分析

**1. お寺を選ぶこと、僧侶を選ぶこと
 について**

今回、予想以上に多いと感じられたの
 が、菩提寺（所属寺）に関する質問であ
 る。たとえば、「菩提寺が遠いと、どう
 すればよいか」「菩提寺のお寺があるが、
 親友の僧侶に葬儀をしてもらってもよい
 か」「関係のあるお寺はあるが、安いお
 寺にかえたい」などである。

これらの質問は「僧侶派遣業」に関す
 る媒体（HPやブログ）と結びついてい
 る。この種の質問が提示された後、「僧
 侶を紹介できます」という流れになって
 いることが一般的だからである。僧侶を
 派遣するということが、商業的に成立し
 ていることを如実に物語っている。ま
 た、僧侶には聞こえて来にくい声である
 が、「別の寺にしたい」「別の僧侶に変え

たい」といったニーズが強いことが推測
 される。拒否される・選ばれない僧侶と
 なっていないか、自省が求められている
 と言えよう。

また、派遣のキーワードは「安さ」で
 ある。お布施を安く、葬儀の経費を安
 く、というところに焦点がしぼられて紹
 介されていることが極めて多い。「兵庫
 で安く葬儀を行う」「神奈川で安く葬儀
 を行う」という露骨なうたい文句が並
 ぶ。お寺は高い、僧侶は高いという感覚
 が広がっており、葬儀内容や僧侶を値段
 で選択することに、抵抗感が薄くなっ
 ているように感じられる。

2. 継承の問題

仏壇について、「仏壇を移せる家がない」といった質問が見られ、お墓につい
 ては「永代使用料とは何か」「お寺の後
 継者がいない。どうすればよいか」とい
 った質問が見られる。

既に僧侶の皆さまが実感されていると
 ころであろうが、仏壇やお墓の「継承」

についての質問が実に多い。これも、先の僧侶派遣と同様、「墓じまい」や「お墓の移転」、マンションにも設置しやす「仏壇の紹介」といったセールスに結びついている。

お墓の形態は、歴史とともに、時代のニーズに合わせて変遷してきた。継承しやすいお墓の形態やサービスのあり方について、安心できる説明が必要であると実感される。

また、仏さまに手を合わせる場所・機会があることの大切さは変わることがない。その大切な価値が失われないように、現代の住宅環境に合わせたサイズのご本尊である「いちよう」・「きく」の積極的な活用を含め、宗派としての活動が必要に思われる。高齢化が進むことで、実家には仏壇があっても、子育て世帯、若者の世帯には仏壇がなく、仏壇が日常の風景の中から消えつつある状況において、手を合わせる場所をどのように創出していくかが問われている。

四、問われない質問

1. 意義・意味の質問はほとんど無い

これまで、「葬儀」に関する多くの情報発信から、何がトピックとして挙がるかを分析してきた。ただ、世間の関心事の多いトピックのみでは、葬儀を行う意義は問われないし、葬儀で行われていることの説明もされないままである。

考えてみると、「○○を行う」場合、その意義や目的がわかっていると、「○を行う」動機が高まる。たとえば、歯磨きには「虫歯にならないように」という目的があるし、塩分を控えた食事には「血圧を下げたい」という理由がある。

しかし、葬儀に関連しては、

「何のために葬儀を行うのか」

「何のために通夜を行うのか」

「僧侶は何のために要るのか」

「読経は何のためなのか」

という質問は無く、もちろん説明も行われていない。例外的に「戒名（法名）」

(※発信の表記に従う)の意義についての質問は見られるが、これについては、「戒名（法名）」無しの式も可能という説明が行われているのであり、積極的に「必要である」という意義が説かれていたのではない。

従来は、伝統として、また地域の習慣として、葬儀も通夜も行うのが「当たり前」であった。しかし、地域の伝統・習慣が薄れ、当たり前が当たり前でなくなっている状況にあつては、一人ひとりの僧侶が、葬儀をする・しないという「選択」、どういう葬儀を行うのかという「選択」に直結する情報として、葬儀や通夜の意義を、わかりやすい言葉で、丁寧に、繰り返し説明していくことが必要ではないか。「なぜ葬儀を行うのか」、その目的や意義が十分に表出していないからこそ、一人ひとりの僧侶が合理的にその意味を説明する必要があるように感じられるのである。しかし、僧侶側・宗派側の発信がほとんど届いていないというのが現実である。



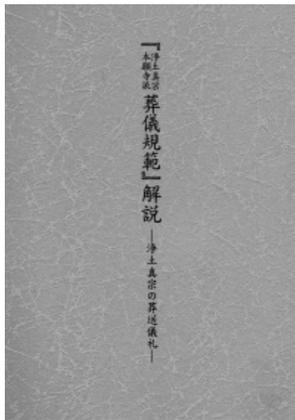
ごえんVol.4『いのちと死をみつめて』

総合研究所・重点プロジェクト推進室
編集・発行 ごえん vol.4 『いのちと死を
みつめて』では、

先立たれた方とのご縁、故人と出あつ
た人々のご縁、そして仏さまとのご
縁という3つのご縁が結びついていく
ところです。(1頁)

と葬儀という場について説明し、『浄土
真宗本願寺派 葬儀規範』解説——浄土
真宗の葬送儀礼——では、

仏教において「葬送儀礼」というの
は、近親者の「死」を通して、遺され
たものが故人を偲び、改めて生前の厚
情に感謝の気持ちを表す場であり、ま
た、慌ただしい日常生活のなかで、真
摯に振り返ることのできなかつた無常



『浄土真宗本願寺派 葬儀規範』
解説——浄土真宗の葬送儀礼——

の道理を知らされる場でもあります。
そして、何より重要なことは、合掌す
るご縁の無かつた方々に、仏法を聴聞
するという機会が訪れているというこ
とです。(6頁)

と説明している。
葬儀の意味は、僧侶にとつては当たり
前かも知れないが、ウェブ上の情報から
見る限り、きちんと丁寧に葬儀の意義を
説明しなくてはならない状況にあること
を、私たち一人ひとりが自覚しなければ
ならないだろう。

2. 死んだらどうなるのか

この点についての質問も、収集した質
問項目には見られない。

死後についての質問は、葬儀の意義を
問うことと同様に、僧侶を含む宗教者の
領分である。死後についての質問や説明
がないことは、葬儀社などによる発信が
宗教的な領域に入り込んではいないもの
と理解することができる。一方で、死後
の問題について語られることは、葬儀が
宗教的な意味を持ちうる一つの生命線の
ようなものであり、この部分が欠如して
しまうと、僧侶がなぜ必要なのか、宗教
者が執り行う葬儀がなぜ必要なのか、と
いった点が曖昧になってしまう。

真宗僧侶から「他宗は引導を渡すから
説明しやすい」という声を聞かれること
があるが、実際には、浄土真宗に限ら
ず、葬儀のウェブ情報からは死後に関す
る語りがほとんど見られないのが実情
だ。このことは、葬儀の小規模化・簡素
化、直葬の増加といった葬儀を取り巻く
状況の変化以上に深刻な問題ではない
か。

とある先輩僧侶から、葬儀や通夜にお
いて必ず、①お念仏をいただいた方々が

往生されるお浄土は苦しみのない世界であること、②この世ではもう会うことのできない方々とまた一緒にになれること、③お浄土で仏となつて有縁の人々を導く身となること、の3点を説明されているというお話をお聞きした。このお念仏の救いは、引導を渡すということ以上に確かなものではないだろうか。この点を外して、浄土真宗の葬儀はありえない。

五、まとめ

質問の中には、今回の分析で取り上げものの以外にも、家族葬や直葬など重要なものがまだまだ多くある。「10年後、20年後の日本社会で求められる僧侶像・寺院像 答申書」(『宗報』2016年11・12月合併号に掲載)では、「選ばれる」時代になつたという分析結果が示された。選択されるといことが、葬儀においてまさしく起きているというのが、今回の調査・分析からの実感である。その「選択」に、僧侶・教団からなされるべ

き情報発信が結び付かず、「葬儀を行う意義」や「死んだらどうなるのか」といった葬儀の本質に関わる内容が取り残されたまま、「安さ」をキーワードとした葬儀プランや僧侶派遣の情報、仏壇やお墓の継承についての情報が行き交っている現状が浮き彫りとなつた。

なお、紙数の都合上、分析することができなかつた極めて重要な問題がある。第10回宗勢基本調査(2015年実施)の結果を見ると、残念ながら宗門内でのHPやSNSの利用は、前回(2009年実施 第9回宗勢基本調査)から4%増加したに過ぎず、あまり拡がっていない。

一方で、全国の別院・教務所のHPを検索してみると、現在13の教区(別院)HPに、所属寺院の一覧や検索がある。また他宗をみると、曹洞宗や日蓮宗では、宗派内のすべての寺院を紹介するHPが既に公開されている。このようにウェブ上での情報発信は始まっているものの、「葬儀」や「お墓」とリンクした情

報になつていない等、課題は山積している。今後は、葬儀でお寺を探している方の検索で出てくるHPが開設され、門徒さんの目線から困つた時に頼りになる僧侶側の窓口、宗派側の窓口を普及させ、そこで「葬儀を行う意義」や、「生死の問題」「後生」について、語られていくことが急がれよう。

i 勤式指導所HP (<http://gonsniki.hongwanji.or.jp/html/bms5.html>) 及び

本願寺HP (各種お申込み・免物 <http://www.hongwanji.or.jp/sanpai/entry.html>) 参照。

ii 寺院一覧・検索等のある教区(別院)のHPは以下の通り(2018年4月現在)。

北海道教区(所属寺院一覧 <http://hokkaidokyomusho.jp/search/>)

東京教区(寺院一覧 首都圏のお寺マップ http://www.kaikyounet/templates/?ft=top_pickup)

岐阜教区(岐阜教区内寺院一覧 <http://www.hongwanji-gifuibetsuin.jp/templr.html>)

東海教区(お寺を探す <http://www.>)

tokai-hongwanji.net/tokai-kyouku/
search/)

京都教区 (京都教区内寺院検索 [http://
kyoto-kyomusho.jp//api/jindb/jin.php](http://kyoto-kyomusho.jp//api/jindb/jin.php))

大坂教区 (大坂教区寺院検索 [http://
www.kitamido.or.jp/kyomusho/
jinsearch/index.html](http://www.kitamido.or.jp/kyomusho/jinsearch/index.html))

兵庫教区 (寺院検索 [http://www.
hongwanji-kobe.jp/search/](http://www.hongwanji-kobe.jp/search/))

備後教区 (組割ページ [http://bingo.gr.
jp/map.html](http://bingo.gr.jp/map.html))

安芸教区 (安芸教区寺院ページ [http://
www.aki.or.jp/about/map/](http://www.aki.or.jp/about/map/))

山口教区 (寺院一覧 [https://www.
yamaguchibetsuin.net/寺院一覧-1/](https://www.yamaguchibetsuin.net/寺院一覧-1/))

福岡教区 (教区内寺院検索 [http://
www.f-hongwanji.or.jp/search/](http://www.f-hongwanji.or.jp/search/))

熊本教区 (熊本のお西さん [http://
hongwanji-kumamoto-or.jp/check-
server.jp/kumamoto/onshisan.html](http://hongwanji-kumamoto-or.jp/check-server.jp/kumamoto/onshisan.html))

鹿児島教区 (県内寺院の紹介 [http://
www.hongwanji-kagoshima.or.jp/tem-
ple.htm](http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/temple.htm))

また、和歌山教区、山陰教区、四州教区、佐賀教区のHPでは組や寺院へのリンクがある。